

## ロータリー財団奨学生 片岡舞さんの自己紹介

茅ヶ崎中央ロータリークラブがスポンサーとなり、エントリーをした片岡舞さんが、グローバル補助金の奨学生に合格されました。グローバル補助金に関しましては、下記URLからご覧いただけます。

<https://www.rotary.org/myrotary/ja/take-action/apply-grants/global-grants>

<http://piif-rfj.org/scholarship.html>

この度、茅ヶ崎中央ロータリークラブの皆様のご推薦をうけて、グローバル補助金の奨学生としてご選出いただくこととなりました。奨学金を利用して、今年の9月からイギリスのマンチェスター大学の修士課程に入学いたします。



ご存知の方もいらっしゃるかもしれませんが、実は二年前にも地区補助金の奨学金に応募しておりました。残念ながら、そのときは奨学金を頂くことができず、学部時代に留学を諦めたため、今回、改めて奨学生として選んでいただけて、本当に嬉しく思っています。一度落選したにも関わらず、今回の再挑戦も温かく応援してくださり、快くご推薦して下さった皆様に心から感謝申し上げます。

留学先のマンチェスター大学では、「国際開発学：貧困、紛争と再構築」という名前のコースに進み、アフリカの国内紛争の発生原因や予防策を学ぶことができます。私がアフリカの紛争に関心を持ったきっかけは、大学時代にアフリカの最貧国の一つであるマラウイという国で行ったフィールドワークでした。そこでドライバーのマラウイ人の方がおっしゃった言葉が印象的でした。「僕らはとても貧しいけれど、周りの国と違って、マラウイは紛争がないから、僕らは幸せに暮らせているよ。」この経験から、争いがないということは平和の最低条件なのではないかと考えるようになりました。

さらに、大学3年の冬に参加したニューヨークのフィールドワークでは、国連の様々な部署でインタビューを行い、国内紛争への人道的介入をテーマにグループ論文を執筆しました。このフィールドワークで、国連で人道支援を取り扱う専門家の方に人道的介入についての意見を求めると、そもそも介入が必要となるような状況に陥らないようにすることが最も重要であると教えてくださいました。これらの経験から、アフリカの紛争を予防するために何ができるのか知りたいと思うようになりました。

大学4年からアフリカで紛争予防に取り組む **NGO** でインターンをしたり、紛争予防をテーマに卒業論文を執筆したりしましたが、専門的知識も足りていないと感じるため、開発学で有名なマンチェスター大学で様々な国から来た学生とともに切磋琢磨して学びたいと思います。1年間で修士号が取得できるイギリスでは、開発学で重要なフィールドワークが含まれていないことがほとんどですが、マンチェスター大学の同プログラムでは、フィールドワークの授業も含まれているため、知識だけでなくさまざまな実体験を通じて、紛争について理解を深めていきたいです。

国際協力の分野の就職では、現地での実務経験が大きな判断材料となるため、大学院卒業後は、紛争地や紛争後の地域で活動する **NGO** や国際機関で働きたいです。世界にあるすべての紛争をなくすことは難しいかもしれませんが、大学院での経験を活かして紛争予防の専門家となり、ロータリー財団の掲げる世界平和と国際理解に貢献できるよう精進いたします。

留学中も、イギリスで学んだことを皆様に報告させていただきたいと思います。皆様の応援に答えられるように精一杯頑張りたいと思いますので、今後とも末永く、よろしくお願い致します。

2015-16 グローバル補助金 奨学生

片岡 舞

トピックスでは、9月から留学される片岡さんの留学先での近況を定期的にアップしていく予定です。